



港工同窓会 ニュース

第 3 号

平成16年 4月20日発行

発行責任者 前田武男

第56回卒業式 閉校式典及び フォーエバー愛宕を終えて

東京都立港工業高等学校

15代校長 小山

実



本校は昭和21年、都立の高輪工業学校を前身として、麻布工業学校、渋谷工業学校の三つの工業学校が統合されて誕生し、現在まで2万人以上の有為な卒業生を社会に送り出して参りました。その間、都心部の狭い小学校の跡地の校舎から、隣接地の買収、実習棟の増築などを行い、歴史と伝統を積み重ねてきました。しかし、本校は施設・設備の老朽化や都民の高校教育に対する期待に応えるため、平成16年3月31日をもって閉校となり、同年4月1日東京都立六郷工科高等学校に生まれ変わることになりました。

3月6日の卒業式、閉校式典には大塚隆朗都議会議員をはじめ、東京

都教育庁からも白井人事部長などの幹部職員を多数ご来賓としてお迎えし、関係者の方々のご臨席の下で盛大に挙行することができました。これもひとえに同窓会をはじめ関係各位のご理解とご協力があったことと深く感謝申し上げます。

閉校式典は250名余りの方々のご出席のもとに、厳粛に行われ、式典後には、慶應義塾大学（ライオンミュージック・ソサエティ）の生演奏が行われ、じつと聞き入るほどの内容でした。

式典終了後の「フォーエバー愛宕―港工の集い―」では、会場を芝パークホテルに移し、同窓会員、後援会員、学校関係者や旧教職員を交えて250名余りの方々が出席され、久しぶりに思い出話に花を咲かせ、開式前から盛会となりました。

前田武男実行委員長（同窓会会長）の挨拶や猪口明（旧職員）氏など多くの来賓祝辞をいただきました。そして、



アトラクションとして前田さん（同窓生・マジシャン）の手品が披露され、加藤琢二（3期）氏の実感溢れる閉めの挨拶で閉会となりました。最後に、閉校事業に当たっては、同窓会より多くのご支援をいただきましたことをここに厚くお礼申し上げます。

都立港工業高等学校の 閉校記念式典に参加して

港工同窓会会長
港3期(全)電力科卒 前田 武男



名門、東京都立港工業高等学校の閉校式典は、平成16年3月6日母校体育館で第56回卒業式に続いて挙行されました。

港工業最後の卒業生を中心に、現旧教職員、都議、区議、教育庁、中高等学校長、ほかの来賓、PTAや後援会、同窓生が囲むように着席すると、四百人余になりさすが広い会場も一杯であった。

卒業式、閉校式をつうじて、現旧校長先生並びに来賓の方々の挨拶では、港工業の、卒業生の社会での輝かしい活躍ぶりを称え立派な伝統を持つ学校であると称え、「その伝統は同窓会が継承し、新たに六郷工科高校に、受け継がれて行く」との共通理解が伺えた。

なかでも校旗継承のセレモニーでは、港工業小山校長から六郷工科高校萩原校長先生に、港工業高校校旗が手渡され、伝統の継承が具現化され一層強く「同窓会が継承して、六郷工科高に伝える」責任を感じた。これからは、六郷工科高校の諸々の活動について、微力ではあるが、同窓会の総力をあげて応援し協力し、我が港工業高校の輝かしい伝統の上に、新しい六郷工科高校の伝統を培って貰えるようにしなければと強く肝に銘じた。

アトラクションの慶応大学のバンド演奏は、時代にマッチした若者向けで、重苦しいセレモニーから新卒業生を開放し会場を一気に明るくして、喝采を浴び、式典はお開きになった。

午後のフォーエバー愛宕―港工の集い―には、会場を芝パークホテルに移し、多数の先生方のご臨席と、会員諸君及び臨時参加の同窓会員もあって、記念品の用意が間に合わないほどの盛況で、予定の時間いっぱい賑やかに歓談され、母校廃校を忘れさせるばかりであった。先生方のご挨拶の間で、アトラクションの前田知洋のマジックが我が子ながら鮮やかで、会場に清風をおくってくれた。最後に加藤理事が閉会の辞で、「港

工13期OBの吉野武彦君が、NHKの技師長としてデジタル放送の中心となって活躍中」と紹介し、一層盛り上がって終了した。港工同窓会は、これからも会員の皆様の協力のもと、活動を継続し発展し、輝かしい伝統を消さぬよう微力を尽くす覚悟です。

◆平成16年度定期総会

今年度の総会は、同窓会の移転先を了承戴いた、新設校舎内で開催いたします。どうぞ校友お誘い合わせの上、ご参加されるようご案内申し上げます。

日時 平成16年6月12日(土) 15時より(幹事の方は14時までに集合)
場所 総会 六郷工科高校 2階会議室 15時
懇親会 (京浜急行「雑色」下車徒歩3分)

懇親会 羽田東急ホテル 17時
(当日は学校から送迎バス準備あり)

会費 8,000円(新会員の方は無料です)
内容 平成15年度事業・決算報告、新役員の承認
平成16年度事業計画・予算案の承認、その他

※準備の都合上、5月末日までに同封はがき又は振込み用紙にて出欠及び転居等ご回答をお願いします。尚、ハガキ宛先は旧住所のままで構いません。



輝いていた時

港14期(全) 電気科卒 大田 善彦

定年を間近に控えて社会への発射台であった港工時代にも思いを馳せていた所に閉校の知らせを聞き、このタイミングの妙と時の流れを痛感しておりました。さて、思い出を何か書くよう依頼されましたが41年も経つと断片的なことしか浮かびません。ここは一つ失敗談を披露し責を果たしたいと思えます。

芝公園のグラウンドで運動会が行われていました。仮装行列でどこかのクラスの出し物で当時斬新な立体文字「ペンハー」のプラカードが目につかびます。この年、放送委員であった私は会場を使うBGM用のレコードを持って行く役割でしたが、何とうっかり電車の中に忘れて降りてしまいました。音の無い運動会なんて……、あせてて職員をせつついて何とか品川で見つかりましたが、普段消極的な自分があの時はびっくりする程積極的に職員を動かした(？)のがその後の自分の性格を少し変えたのを覚えています。また、放送委員会では当時三田の某女子高放送部と番組の交換をしていましたが、私が担当して渡したテープが後で音が入っていないかったと聞かされ大ショックでした。でも一方で今でもそんなはずは無いと信じています。

若い頃の苦い思い出はいつまでも記憶に残っているものです。しかし振り返ると、自分にとってこうした港工時代は人生で最も輝いていた時だったと思います。

(編集部注・筆者の大田さんは、NHK TVのプロジェクトXで、「VHSを開発した、日本ビクターの技術スタッフ」であり、都立港工業高校の卒業生であると、履歴書と在学中の顔写真も紹介されました。)

今は昔

港16期(全) 自動車科卒 野尻 孝

港工を卒業して何年になるだろう。昔は良かった。私だけが思うことなのか、小さな校舎と学びの友、今自分がしなければいけないことを素直に実行することだけであった。

世の中は決して豊かでなかったと思う。特に我が高校はその中でも明白である。

何もない学校で何かを考えたり作り出すことの大切さをむしろ勉強したのかも知れない。先生方の指導も又ユニークであり個性的であった。特徴のあるその姿は今も思い出す。

道具や機械もあまり良くななく、使う自分達の技術が特に問われる。生

活環境や人間関係も単純でわかりやすく、自分にとっての高校生活はそれなりに意義深いものであった。社会の変化の大きさがこんなになるとは思いもよらず。ただただ筆を取るとどつと書きなぐってしまう。今の自分と昔の自分いつも考えることが有難いことです。

閉校式に出席して

理事港6期(全) 電力科卒 龍 健治

式場に入り着席すると、私自身の50余年前の卒業式の情景が甦り、懐かしく思いました。厳肅な雰囲気の中、卒業式に続いて閉校式が行われ、港工の58年の歴史に幕が下ろされました。先生方をはじめとして港工にたずさわった方々、私達卒業生にとつて閉校には、式だけでは表し尽くせない思いがあります。

しかし、今年めでたく卒業された皆さんを見ますと、各種資格取得者も多く優秀で、希望に満ちあふれていて、同窓会で再会できる日が楽しみにになりました。

末筆ながら母校に感謝の意を表したいと思います。

閉校式を終えて

理事港43期(全) 電気科卒 山下 耕作

今回の閉校式に際して、私は記録係として携わる事ができてとても嬉

しく思います。私の年代はまだまだ仕事やその他様々な事柄で忙しいようではとどんどど見ることが無かったのが残念です。

私はビデオを使い、会場である体育館の一番後ろからファインダー越しに卒業式より閉校式まで一港工の最後のイベントーを見届ける中で色々な思い出が湧いていきます。修学旅行でベッドを壊した奴や、ジュースを冷やす為に洗面所で水を流し放しにして漏水させたり、文化祭でいきなり金髪で登校、数時間後には黒く変わっていた奴も居ました。一方、担任の久保田先生は実に個性豊かな方で、オリンピックが近いからと言ってハンゲル語の授業をした。「こんちくしょう」と思いながら受けた加藤先生の授業。厳しかったからこそ覚えていた数々の思い出を「この学校で」と細かい場所を指して語る事もできなくなってしまう……。私と同じ時代の同窓生がそう思い始めるにはまだまだ時間が掛かるのでしよう。

現在、現役で働いている先輩、後輩の方々がふつと思いつく時の証として、また、それだけでなく、新しい価値を見出そうとしている同窓会に対してわずかではありますがお手伝いをしていきたいと思えます。

忘れたくない思い出

顧問 旧職員

高輪7期全 電気科卒 高橋 光春

私が定時制の教師になって2年目の昭和29年の冬にこの事故は起こった。

私が担任した生徒K君とA君は、休憩時間に卓球をやり二人で屋内体育館に行ったが、台がすべてふさがっていたので屋上に行ったが、寒いので駆けっこをして身体を暖めようと、前向きに走ったのは面白くないと後ろ向きに走りだしたので

す。 たまたま、屋上の金網に人間の横巾より多少広い部分が破れていて不運にもK君が勢い余ってそこから地上に落下してしまつたのです。幸いにも落ちた場所が土の上で、落下途中に松の木の枝を折りそれが緩衝の役割をしてくれたので病院に運んだ時はK君の意識ははっきりしていました。

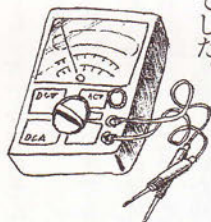
一方、警察の方はK君とA君が争つた挙句の事件ではないかとの疑念を持って問いただしてきましたがK君本人がそれを否定し事件性なしと判断され、その点ではほっとしました。私は三河島のK君の家に急ぎ、事故を報せに車を走らせました。

慈恵医大病院に運ばれたK君は医師の診断によると、尾てい骨の骨折と小腸の数カ所に血の滲みが診られるという事で数週間の入院で済むとの話でした。後日、落ちた場所を見ると背中とおしりの部分の土が数センチ凹んでいるのがみられました。

入院後のK君は順調に快復し後遺症もなく無事退院することができ、三年後に級友の諸君と卒業することができました。

事故があつてから数ヶ月後、K君の父親から息子の命を助けてくれた松の幼木を数十本学校に寄贈したいとの申し出があり校舎の周囲に植えました。

現在なら裁判沙汰になつてもおかしくない事故でしたが本人が後遺症もなく無事退院、卒業でき、また、学校の誠意ある対応もあつて落着けることができました。人生には予期せぬ偶発的な事故が起こり得るものです。その時に誠意と真心を持つて対処することの大切さを学んだ私の若き日の経験でした。



◆母校教職員の異動

平成16年 4月

〈転出〉

- 小山 実 (校長) 小金井工業
- 桑原 洋 (教頭) 大森地区単位制高校開設準備室
- 大塚 健一 (主幹) 大島南
- 川田 裕美子 (国語) 上野高
- 長村 嘉浩 (社会) 国際高
- 宮原 賢二 (社会) 小上台高
- 瀧波 広美 (理科) 日比谷高
- 川守田 淳 (理科) 江北高
- 下田 裕二 (保体) 大山高
- 矢本 純子 (英語) 蒲田高
- 大橋 さよ子 (養護) 大森高
- 岩澤 欣一 (機械) 工業高専
- 小野 正明 (機械) 向島工業
- 木村 隆 (機械) 六郷工科
- 竹内 篤 (機械) 向島工業
- 上田 政明 (機械) 世田谷泉
- 岩瀬 七郎 (機械) 蔵前工業
- 鈴木 貴裕 (機械) 小金井工業
- 上野 浩三 (自動車) 六郷工科
- 澤田 利夫 (自動車) 練馬工業
- 畑 忠廣 (自動車) 世田谷工業
- 渡辺 正良 (自動車) 六郷工科
- 五十嵐 健雄 (電気) 世田谷泉
- 加藤 益明 (電気) 本所工業
- 仙田 恒夫 (電気) 小石川工
- 五十嵐 雅 (電気) 荒川工業

〈転入〉

- 増田 泰治 (電子) 王子工業
- 三浦 達郎 (電子) 王子工業
- 本杉 不二夫 (電子) 退職
- 武藤 隆 (電子) 蔵前工業
- 田辺 秀典 (事務長) 芝商業
- 安田 憲俊 (主任) 千代田地区定時制高校開設準備室
- 瀬戸山喜陽子 (主任) 小上台高
- 西山 和久 (主事) 青井高
- 長谷川 実花 (主事) 北豊島工業
- 松島 多賀子 (司書) つばさ総合
- 杉本 初代 (技能) 板橋養護
- 市川 誠司 (技能) 江東ろう
- 里見 征子 (技能) 退職

訃報

本会顧問 幾本嘉男先生には、昨年10月26日逝去されました。同窓会総会を再開以来今日までのご指導ご鞭撻を心から感謝申し上げます。先生のご冥福をお祈りいたします。

港工同窓会 会長 前田武男

港工業の思い出

会計理事 旧職員

港3期全 電力科卒 加藤 琢二

いよいよ、56年間の伝統ある港工業の校門を閉じる時が迫り、永い間関わりを持った私にとって極めて感慨深いものがあります。

私は、前身校の高輪工業に入学し、桜川小学校に同居した併設中学に学びました。学校移転には、高輪北町から愛宕町まで級友といっしょに生用用の机椅子を担いで運びました。そして港工業に進みました。

私が生徒の頃、本校の玄関の位置は今と同じで広さは3倍ぐらいいったと記憶しています。校舎は現在の教室棟（3階建部分）と、玄関の右側に講堂兼体育館がありました。校庭は現在よりも少し広がった。そこに約600名の生徒が通い、港中学が同居していたのです。屋上まで満員でした。私はそんな中で学習し卒業し、さらに港工業に奉職しました。

当時、「港工業は、潜水艦学校（狭い施設にぎっしりと立派な設備とスタッフが活躍する意味で）だ。」と称されていました。実験、実習設備は産業教育振興法の予算を受けて、大学級であったと思っています。

生徒も優秀で、中学校の進学受験レベルには工業の御三家などと評価され、優秀な者しか受験しなかったと言います。授業は水曜土曜以外は8時間でした。

今、日本放送協会で技師長を務める、吉野武彦さんは港工業13期の卒業生です。先年テレビの「プロジエクトX」で有名になった日本ビクターVHS開発のスタッフ、大田善彦さんは港工業14期卒業生でした。その他多くの卒業生が、多くの企業の中堅幹部として活躍しています。また、近年テレビで活躍している世界的マジシャンの前田知洋さんは港工業36期卒業の異才です。

港中学が新築した現在の校舎に移って、愛宕の校舎が我が港工業専用になり、周辺の用地を買収して工場を増築し、校舎を改築して体育館を最上階に完成して、今日に至りました。でも600名の生徒には狭い学校でした。

その為か港工業では校内だけでなく、校外に出る行事も多く実施されてきました。年を経てその形態は変わっていますが、生徒会主催の野球大会、校内球技大会（バスケット、バレー、テニス、卓球）、水泳大会、学校祭（港工祭）、学校主催の陸上競技大会、体育祭（運動会）、マラ

ソン大会（または駅伝大会）、修学旅行、校外授業（遠足）、富津臨海学校（または林間学校）、クラブ合宿のほか授業の延長では水泳の特訓、共同実習場参加、各科の工場見学、自動車科補習授業、電気工事士補習授業そして予餞会等大変な数でした。生徒は感心するほど良く頑張りました。ある新任の先生が、「この先生は生徒以上に行事に取り組んでいる。」と言ったほど先生も熱心に指導助言参加しましたが、生徒もアルバイトなどする間もなく学校に集中したのです。

生徒会活動も活発で全員参加でした。総務を中心に、各種委員会、運動部（9部）文化部（10〜14部）が活躍し、夏期合宿も盛んでした。軟式野球部は東京都大会で優勝し、エースの港工5期卒業の福島豊一君がプロ（松竹ロビンス）入りました。バレー部、バスケット部も諸大会で上位にランクされる等成果を収めていました。文化部は、港工祭を発表の場としておおいに盛り上げました。中でも伝統ある演劇部は年3回の公演をしたりしました。学校新聞や雑誌等の発行もされました。

しかし、校舎が現在のように完成した頃から、変わり行く教育制度や、社会情勢の影響もあって次第にすた

れてしまい、次第に活気を失って諸行事が実施されなくなりました。悲しいことです。私は都大会優勝から硬式に変わった野球部が、甲子園大会東京都予選大会に初めて出場した試合の応援に行った縁で、以後30年余り活動の手助けをしました。が、グラウンドを持たない悲しさ、容易に勝つことができず悲しかったです。ベスト16になったのが最高でした。でも部員たちは、土曜、日曜、祭日、春休み、夏休み、全てを野球にかけて頑張った結果でした。そして、去年神宮球場での対日比谷戦を最終試合として見守らせてもらいましたが、選手の頑張りに感激しました。「関係の皆さん本当にご苦労様。」と感謝しました。

以上、思いつくまま雑念を書きましました。私は定年で港工業を退職するまで、48年もの永い間、港工業にお世話になったことになりました。今、極めて大切なものを失ったのだと思っています。



母校最後の卒業を前に 実施された「進路指導教室」

会計理事 旧職員 港3期(全) 電気科卒 加藤 琢二

平成15年度の港工同窓会定期総会
は、母校、都立港工業高校の校舎内
での最後の総会で、会場の懐かしさ
からか、例年より参加者が多く盛会
だった。この日、桑原教頭先生から、
「最後の卒業予定者へのプレゼン
トとして、卒業後の心構えや、励まし
を先輩卒業生よりして欲しいので、
卒業生の人選と紹介を。」との要望
がもたらされた。

その後、理事会で協力すべく協議
を重ね、候補者を複数名推薦し、最
終の断を学校に委ね、交渉も教頭先
生にお願いした。突然の交渉を受け
た方には、さぞびつくりされた事で
しょう。非礼と無責任を反省し、こ
の場でお詫びします。

校内に百人規模の教室が無い為、
MAECの4クラスが単独に講演を
聴くことで、講師の協力が得られ、
12月、次の通り計画された。

講師の推薦母体としての立場か
ら、講師の紹介を兼ねて、生徒が卒
業時入会する、同窓会の概略を説明
する為、参加の許可をいただいた私
は、同窓会の目的、主たる行事の実
状、今後の方針を中心に説明し、6

月の定期総会への出席を勧めたが、
予定より時間を消化してしまい迷惑
をかけた。

講師の方は、四者四様で、それぞ
れの経験からの助言をこもこもして
下さった。生徒を一堂に集めて聴か
せてみたいほどの内容であった。い
くつかある教訓の中から一つでも生
徒の心に残ればよいと願った。鍋谷
氏は、「会社では、自分がやりたい
事だけがあるわけではないから、何
でも好きになる努力が大切だ。」「最
近の職場は自分の力次第だ。」「電子
革命の時代には、先を読んで、対応
できるスピードが要求されている。」

と説かれた。生徒は静かに話をかみ
しめているようだった。中村氏は、
「会社では、人の和が図られねば何
事もできない。評価は、ひとがする
ものである。良い返事をせよ。身だ
しなみに気をつけよ。」

そして、「実力をつける努力をせ
よ。」と、かなり具体的に説いてい
た。同時に並行実施の大槻氏の講演
は元担任の港工数学科両角先生に講
師紹介の労をお願いし、ご迷惑をか
けた。私は終盤に参加させてもらっ
たが、「一人一資格」をテーマにか
かげる母校の教育方針に合致した、
主任技術者、電気工事士等々の資格
に挑戦する心構えとテクニクをか
なり具体的に説明されていた。将来
実行してくれるように願っている。
卒業生中の異才、前田氏は、マネー

クラス	開始日時	講師
3 C	22日 11時30分より	36期電子科卒 前田知洋氏 クローズアップマジシャン
3 E	19日 11時30分より	23期電気科卒 大槻宏一氏 明電プラント(株) 勤務
3 A	19日 11時30分より	21期自動車科卒 中村秀行氏 (有)ロジテックアイ経営
3 M	18日 11時30分より	16期機械科卒 鍋谷 肇氏 ウチダエスコ(株) 勤務

ジャーである夫人、父君である前田
会長を同行して参加。まず自己紹介
の一端として、カードマジックを披
露し、生徒の心を巧みにつかみ、路
線変更の体験談の中で、「フロッチ
ヤートをいつでも作って活用せよ。」
と計画的な生活態度を強調された。

今回、進路指導の会に参加させて
もらい、「このような会はもっと前
からすべきであった。」との思いを
強く感じた。もう、生徒は居ない今
になって、本当に残念に思いました。

都立港工業高等学校の 卒業生への諸証明の 発行について

閉校に伴い、卒業生への諸証明
の発行事務は都立六郷工科高等
学校において受け付けます。

〒144-8506

大田区東六郷2-18-2

京浜急行「雑色」下車3分

ご不明の点につきましては、

東京都教育庁高等学校教育課

03-5321-1111

へお問い合わせ下さい。

講師感想

港工高雑感

港16期(全) 機械科卒 鍋谷 肇

港工高を卒業して丸40年になる、この3月に母校の閉校式が執り行われた。懐かしい方々と歓談する内に往時の記憶が蘇ってきました。

炎天下の茂林寺での野球部の合宿。シード校に選抜された時期で「グラウンドの無い硬式野球部」としてマスコミにも注目されたので、練習量も多く、厳しく辛いものでした。普段は校舎の屋上で、キャッチボールとトスバッティング。土のグラウンドで練習するには、放課後すぐにバックネットを抱えて、愛宕から永田町まで駆け足で往復しなければならぬ、今では考えられない出来事でした。

知人を通じて麻布高校のグラウンド借用に奔走したり、主将の権限行使で「丸刈りからの解放」を克ち得た事や、運動部委員長として予算会議の短縮化を図った事など、今では懐かしく思い出されます。アルバムを捲ってみると、運動会での仮装行列、文化祭での喫茶店運営、先生方の似顔絵と、こっそり撮った写真との対比、遠足での乱行など自由奔放に満

喫した高校生活が甦ってきます。

港工高は閉校しましたが、青春の一時代を共有した仲間との絆は不滅です。最後の港工祭のゲートに掲げられた「受け継ぐ光、港魂ここにあり」の気持ちをもち続けて同窓会が継続できる事を祈念致します。

閉校に思うこと

港21期(全) 自動車科卒 中村 秀行

「母校の閉校」とショックな話を聞いてから数年が経過し、現実の事として3月6を迎えました。当日は12期の私からしても大先輩が多数閉校式に出席されており、母校の歴史を改めて感じました。

しかし閉校式のセレモニーを経て何故か閉校の実感はありません。数日前にも学校の前を通りましたが、校舎を見れば内側がどうなっても母校は母校です。

建物が取壊されれば別でしょうが、私にとって今は特に変化はありません。暫くはこのままで良いですね。

さて私は12月19日に港工最後の自動車科の卒業生に話をする機会を得ました。卒業に当たり社会人としての心構えを話して欲しいとの依頼でした。役不足は承知の上で話をさせて戴きました。

評価は廻りが決めるもの、自己評価は自己満足でしかない。第一印象から評価は始まる。

身支度、清潔、挨拶、返辞、そして約束した事と決まりを守る。

誠実な仕事に廻りの評価は確実に高まる。そこにチャンスも待っている。そんな話を私の35年の体験を交えて話しました。

皆さん熱心に聞いて頂き恐縮してしまふ程でした。これから山あり谷ありの中に幸福な人生を送って欲しいと願いました。卒業式にも参席させて頂き、その思いを強くしました。

閉校式後に自動車工場に入りました。有りましたA型フォードが。自動車科の顔が有りました。T型に次ぐ世界で2番目に古い自動車があるに有りました。

新設の六郷工科高校に引き継がれ学校に展示されると聞きました。自動車科の卒業生にとっては母校のシンボルとも言えるA型フォードです。

閉校後には是非とも会いに行こうと思います。そして私たちの歴史もそこに有ることを確認しに行きます。母校が引越した程度に思っていれば良いでしょう。

港工同窓会の今後益々の栄華を願います。拙文を閉じます。

在校生への講話について

港23期(全) 電気科卒 大槻 宏一

2002年11月10日港工祭に父と訪れた時、同窓会コーナーに立ち寄ったことから、今回の講師依頼の道がつかないと思えます。松岡会計理事に挨拶をした時に、将来事務局の手伝いを要請され、軽い気持ちで承諾し約1年あまりが過ぎた頃、桑原教頭先生より、在校生へ先輩として進路教室の一環として講話の要請があり、引き受けたものの自分の経験といえ、現在の職場で工事安全関係の各講習については、トレーナーの資格を取得し、3回会社の関係者に講話した程度だったため、数回の打ち合せを重ね、桑原教頭先生より具体的な指示をいただき、無我夢中で実施させていただきました。

先日の「フォーエバー愛宕―港工の集い」の時、小山校長先生に直接会った際、「生徒が家で家族に、3年間の行事の中でも特に印象に残る事柄で、評判が良かったですよ」と過大な評価をいただき、恐縮いたしました。

今後も微力ながら、港工同窓会に寄与していきたいと、あらためて感じました。

新設校の紹介

開校のいきさつ

東京都立六郷工科高等学校長
萩原 和夫



東京都立六郷工科高等学校は2年間の開校準備を経まして、4月に大田区東六郷の地に開校いたします。この間、港工業高等学校の小山校長をはじめ教職員の方々には、多大な協力をいただき感謝しています。港工業高等学校同窓会の皆様にもごあいさつさせていただきます。

本校は平成9年の都立高校改革第一次実施計画に基づき、港工業高等学校・羽田工業高等学校定時制課程・工業高等学校定時制課程・鮫洲工業高等学校を発展的に統合して、大田地区単位制工業高等学校として発足しました。平成14年には都立高

校新実施計画に基づき、日本で初めてのデュアルシステム（二元制度）が導入されました。これは、学校と企業が提携して、協力企業における長期就業訓練を学校の単位認定する、ドイツのマイスター制度の初期職業教育をモデルにした新しい職業教育制度です。全国的に注目され、産業界から熱い期待を寄せられています。

全日制課程は4学科あり、プロダクト工学科は2学級で機械系のものづくり、オートモビル工学科は自動車整備・技術、システム工学科は電気・情報技術、デザイン工学科はプロダクトデザイン・ビジュアルデザインを行います。デュアルシステム科は昼間定時制課程として、3年間で卒業を標準とします。1年次はインターンシップ、2年次・3年次は長期就業訓練を行います。定時制課程は普通科と生産工学科の2学科で、4年間で卒業を標準としますが、3年間で卒業することも可能です。

本校は単位制工科高校の特色を生かして、幅広い自由選択科目を用意して、生徒の学習希望や進路選択に応じた個性を伸ばす指導をいたします。匠の技などの地域産業の技術を取り入れた実践力のある教育をいたします。地域との交流を深めて、親しみのある学校にしていきます。

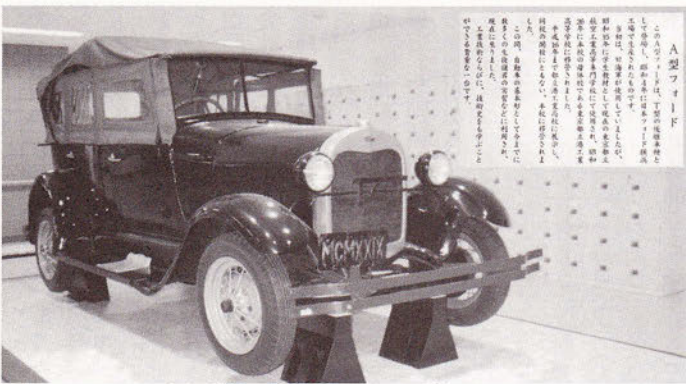
が生じない範囲で可能です。本校も開校3年後には、卒業生を輩出します。本校同窓会は卒業生の自主的な判断で結成され、主体的な運営がなされるものと期待しています。

港工業高等学校の同窓会の皆様におかれましては本校生徒の進路先やデュアルシステム科の協力企業のご紹介を賜れば幸いに存じます。貴会のみますの発展をお祈り申し上げます。

(平成16年3月記)



新設の都立六郷工科高等学校 校舎



正面玄関に展示されているA型フォード

最後の港工祭に参加して

港4期(全) 電気科卒 遠藤 博

私は、現在日本版画協会という団体に所属し、エングレーヴィング(engraving)という一番古典的技法で銅の板にビュランというのみで、線を一本一本彫り銅版画を制作している。何故、電気の技術畑の人間が銅版画を制作をしていることと、どこで係わりを持ったのだろうか、特別には何もない。

強いていうならば、私は物を創る仕事をしなかったが、私が就職した処は通商産業省の電気試験所という処で配属された部署は電気製品の安全確認のための検査を主体とする仕事であり、物造りの仕事ではなかったためか、はたまた、港工高に入学した昭和24年の1年生のとき、倶楽部活動の一つに美術部があり、1年間そこに所属していた。

部長は英語担当の小神野先生であり、部員は6、7名でそのうち1年生は3名であった。部活動の主体は、水彩でのスケッチだったように覚えている。

年間の大きな行事は、学校祭における展覧会で各部員が制作した絵画の展示と美術部のイベントの目玉と

して、100号程の大きな絵を全員で2点制作することになった。

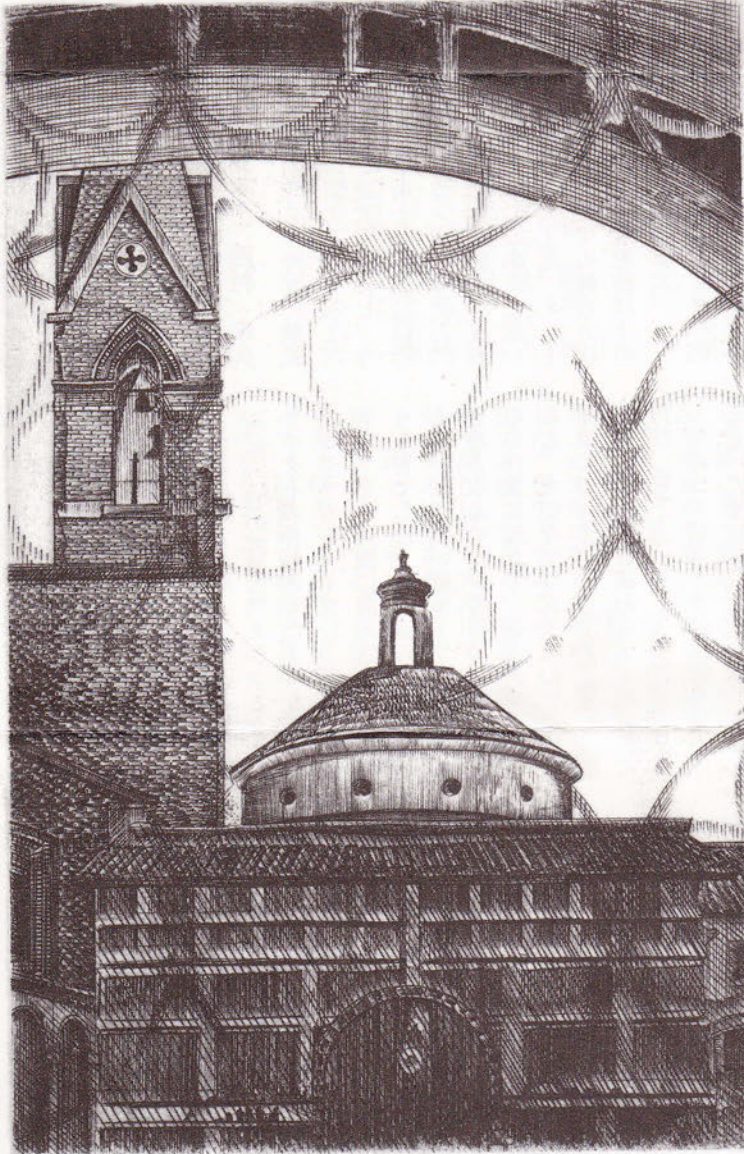
その当時、高校生が100号の絵を画くなど思いもよらなかった。

その当時は100号という大きさの絵は、高校生の僕達にとつて、すごく、とんでもなく大きな絵であり、高校生に画ける絵ではないとの思いが強かった。

先輩に絵作りの達者な方がいらし

て、その方が主体となつて、全員で完成したときに受けた感動は、制作当初、創ることは不可能ではないかと思つていたものが、全員が力を合わせたとはいえ、努力することによつて、100号もの作品を2点も完成させ得たときの感動が後年、未知なる銅版画を制作することへと駆り立てた一因となつていたのかも知れない。

添付したこの銅版画は「Par la fenêtre」と題するもので、フィレンツェで毎年6月頃に、格闘技ともいわれる古式サッカーの地区対抗試合がサンタ・クロッチェ広場で行われます。この広場に面して建つ、サンタ・クロッチェ教会の簡素なパツツイ家の礼拝堂を銅版画にしたものです。



閉校記念誌より

港工と私

卒業生(昭和24年卒) 田村 謙二

昭和24年に卒業し、私もNHKに就職できました。

港工出身者は4名(1名は放送効果団)。他校に比べて数多く、母校の成果を嬉しく思いました。その後、私は転勤等で東京を離れることが多く、同窓会とは無縁でしたが1期電気科の級友とは時々会合を持ち、楽しい時を過ごしていました。最近の会合で港工閉校の話聞き、また同窓会の方より連絡をもらい事情は解りましたが、卒業生としては一抹の寂しさを感じました。

今回私に「思い出」の原稿依頼がありました。私が過ごした港工の二年間はまた戦後の混乱期で明るい話題はあまり無く、それでもスポーツ・文化祭など物不足の中、皆で知恵を出し合い何とか出来たこと、私としては野球大会(都予選)に出場、文化祭の演劇(裏方)に参加したことが今でも楽しい思い出です。

硬式野球部創世記の思い出

卒業生(昭和33年卒) 西村 幸久

たしか、昭和31年に、今まで軟式野球(先輩達は立派な成績を残していた)だったのを硬式野球にし、今思うとよくこんな所(丸子橋の河原、日比谷高校のグラウンド)あるいは、こういう所(昔国会図書館、今芝迎賓館)で練習ができたなあと思えました。今だったら人工芝、ネットなど設備の面で工夫しての練習方法が考えられますが、半世紀前は土のグラウンドを求めていました。

運動部はたいがい合宿します。当時も行った先が、群馬県の茂林寺(分福茶釜で有名な寺、泊まりも同じ)で我々の認識では巨人軍が猛練習した所と耳にしていました。今の世代では?と思う、夏合宿なので炎天下で、きついという印象しか残っていませんが、卒業してこれが、苦しいとき負けてたまるかという気持ちを持たせてくれました。

平凡な台詞

卒業生(昭和59年卒) 前田 知洋

「電算機室」と呼ばれた部屋は中途半端な階段の途中にありました。今は「コンピュータルーム」という名前に変わっているのかもしれない。そこで授業は、ミシンとタイプライターの合わさったような機械にプログラムをタイプし、出てきた紙テープを電算機に読み込ませるという実習でした。読み込みを終わらせるたびに、長い紙テープをグルグルと巻き取るのが一苦勞でした。巻き取る作業に飽きて、速くグルグルすると、大切なプログラムのテープは簡単に切れました。そうになると、授業時間内で実習は終わらず、放課後に再び、紙テープをグルグルしました。

今のコンピュータの広告を見かけると、たまに高校時代の紙テープのグルグルを思い出して、「昔は手のかかる子供だったんだよ」という粋人の気分を懐かしい記憶と共に味わっています。

閉校記念誌(DVD付)について

同窓会で若干の予備を購入しています。ご希望の方は事務局へご一報ください。

近況報告

港9期(定) 電気通信科卒

山元 稔

拝啓、初めまして、私も昭和32年港工2部電気通信科の卒業生です。10月25日に卒業以来46年ぶりにクラス会を催すため、学校近くの北海道西新橋店に集まりました。その折り、私どもの仲間で鈴木亨君が学校に引かれる様に参りましたところ、運良く皆様方にお会いする事ができた訳です。これは何か不思議な糸で結ばれているような思いがしました。

卒業以来4、5人のごく親しい仲間だけの付き合いも年を数えるにしたがつて、仕事の忙しさ、転勤等だんだんと疎遠になり、暑中見舞、年賀状程度になりました。そしてこの1、2年前から再会するようになり他の級友の消息などの交換をしました。が、半世紀近くの年月では、二桁も仮なりません。解決策として卒業名簿と同姓同名者を電話番号簿、個人名簿から拾い出し、電話確認をしてみました。

現在、関東地方全域を調査しました。結果38名中30名の確認を得ること

とができました。膨大な番号簿でしたので、見落としもあるやもと思ひ再度の見直し、また他の地域にも広げて見ようと考えております。

とりあえず名簿を提出します。今回クラス会出席者は16名でした。そちら様から頂きました港工同窓会ニュースは配布しました。なお欠席者にはコピーしまして私どもが郵送します。

申し遅れました。私どもの担任は八巻清先生です。10年程前に亡くなられたそうです。

クラス会の名前は八港会（はちこうかい）です。

八港会の幹事は私、山元稔と申します。生涯幹事です。どうぞ宜しくお願い申し上げます。なお名簿のほかに、校歌、校友歌の歌詞を同封します。

港2期(全) 電気通信科卒

鈴木 常夫

閉校式ご案内ありがとうございました。ファックスがなかなかつきませんが、郵送させていただきます。

改革の時代、統廃合はやむおえない事とは思いますが、港工が消えることは大変残念です。

私は品川の校舎から愛宕への引つ

越しにも参加させていただき、新校舎の放送設備も手伝わさせていただいた2期で卒業した者です。スタート当時は中学校との同居でした。屋上の煙突にぶらさがり写した写真を取り出し、屋上でやったゴロベースの野球、抜け出して裏のパン屋でコッペパンを買い食べたことなど思い出し感傷に耽っています。

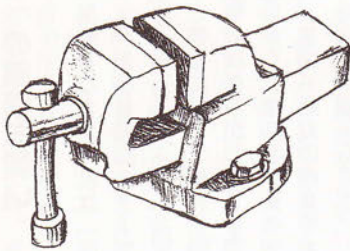
新たな前進であり、港工の教訓は不滅と思います。

つまらぬ事を書き並べましたがこれが歴史なのでしよう。又終わりのないのが歴史でしょう。

貴殿及び事務局の方々のご苦勞には心から感謝します。

これからも、ご多忙のことと存じますが、くれぐれも御身ご自愛のうえ、ご活躍ください。

遠い昔を思い出し、一部を書きましたがご笑読ください。



◆港工同窓会 会則(抄)

(会費に関する部分の抜粋)

第6章 会計及び基本財産

第11条 本会の経費は会費寄付金雑収入をもって支弁する。

第12条 本会の会計年度は毎年4月1日より始まり、翌年3月31日に終わる。

第13条 本会の収支決算は会計監査の承認を得、毎年通常総会の際之を報告する。

第14条 一、入会金及び会費として5,000円を卒業時に納入する。

二、卒業後5年を経過した会員は賛助金として年額2,000円を納入する。

三、総会または行事等の際に臨時会費を徴収することができる。

第15条 一旦受理した会費は如何なる理由があつても返付しない。

第16条 本会は基本財産を蓄積する。会費・寄付金及び毎年度経費の余剰金は基本財産に編入する。

第17条 基本財産は会長が之を管理する。

第18条 基本財産は理事会の決議によらなければ支出できない。

第8章 付 則

第30条 本則は平成14年4月1日より一部を改定、効力を発する。

※右の改定は、平成13年6月9日の定期総会に提案、可決されました。

ついでに、平成14年4月から振込用紙を送り、賛助金を納入戴くことを開始しました。同時に同窓会ニュースを創刊しています。

※母校閉校に伴い、会則の改正が必要となります。今後の状況変化をみながら順次、総会に改正提案を行なう予定です。

◆事務局からのお知らせ

◎会則改定による賛助金のお願い

本年3月に最後の卒業生を迎え、入会金を徴収した後は収入が絶えることになるため会則を改定し「卒業後5年を経過した会員は賛助金として年額2,000円を納入すること」になりました。

平成14年度は824名、15年度は701名の会員から送金戴きましたので同窓会ニュースを発行し、約6,000名に振込み用紙同封で送ることが出来ました。

賛助金の納入は毎年かとの質問があります。任意につき毎年でなくても結構です。但し現状は減少傾向にあり、より多くの会員の賛同をお願いする次第です。

- ①金額の訂正は可能です。
- ②郵便局のATMに同封の用紙を挿入すれば、早くて手数料が(同窓会負担)安いです。

◎会員名簿の発行に関して

会員から同窓会名簿発行のご要望が多数ありますが、昨今の情報漏洩問題から当面全体名簿の発行予定はありません。但しクラス毎等の要望には個別に送付しますので、ご一報下さい。

◆会報への原稿お願い

母校が閉校となり、今後は「同窓会ニュース」が会員親睦のテーブルになります。皆様からの声を聞き、ご意見・ご要望に沿って拡充を図ることが大事ではないかと存じます。転居連絡からクラス会、クラブ仲間のこと、恩師・級友の消息等々お寄せ下さるようお願いいたします。

新設六郷工科高校ではデュアルシステム科の協力企業の紹介を期待されています。港工業高校の実績が活用されるべく皆様のご協力をお願い申し上げます。

ご質問・お申し込み等はご一報下さい。

◎会員数の把握状況

区 分		在籍数	確認数 (亡)
正 会 員	高輪本	771	102 (64)
	高輪本	768	56 (68)
	高麻布	485	184 (91)
	港1定全	3,866	700 (46)
	計	9,773	4,345 (158)
特別会員	現職員	0	0 (0)
	旧校長	15	7 (8)
	旧職員	628	368 (97)
	計	643	375 (105)

☆平成15年度の収支状況

前期繰越額	3,224,868.-
収入	2,879,198.-
入会金	68名 340,000.-
賛助金	701名 1,356,830.-
その他	1,182,368.-
支出	3,150,279.-
卒業生名簿	257,250.-
生費	646,263.-
通信費	710,850.-
広報費	355,773.-
校典協賛	1,000,000.-
その他	180,143.-
財産繰り出し	271,081.-
時期繰越額	2,953,787.-

☆同窓会会務の連絡先について☆

名簿の質問、住所変更のご連絡等は全て、下記へお願いします。

記

〒278-0036 千葉県野田市中野台鹿島町23-7
(株)クリーンジャパン内
松岡信之
(会計理事 港16期S39.A卒)

TEL 04-7125-6808 FAX 04-7125-6851
E-mail : matsuo@cleanjapan.net

編集後記

遂に3月6日閉校式を迎え盛会の内に終えることができました。

式典・お別れ会とも予約外の会員が多数来場され、受付対応に嬉しい悲鳴をあげましたが、皆様の名残惜しい気持ちに共感したところです。

感傷に浸る間もなく、これからお世話になる新設の六郷工科高校に参上し、早速ながら理事会を開催させて頂きました。学校は開校したばかりで何事も多忙につき、極力ご迷惑を掛けまいよう注意を要しますので会員の皆様には、同窓会の問合せ等は上記へ連絡して頂き、学校へ直接電話等をしないようくれぐれもお願い申し上げます。

第3号のニュースは準備が遅れて執筆の方には急なお願いでご迷惑をかけ、お詫び申し上げます。

港工校小山実校長、六郷工科校萩原和夫校長をはじめ、銅版画の遠藤博氏ほか多数の方のご協力を得て発行に至りました。厚く御礼申し上げます。

6月12日に新設校で定期総会を開催します。学校見学と共に夕日の羽田空港を眼下に眺めながらの懇親会です。是非ご参加下さい。

編集担当一同